7/6-12#4神の尺度の度量と、霊的戦いについての務め:I.「私たちは自分の度量を越えて誇ろうとはしません。むしろ測りなわの神が、私たちに割り当ててくださった尺度の度量にしたがって、…誇ります」(2コリント10:13):A使徒パウロは大胆でしたが、限度を越えて大胆ではありませんでした。これは、彼が主の制限の下にあったことを示します:1パウロが誇ることは、測りなわの神、管理する神が、彼に割り当てた尺度の度量にしたがっていました。2コリントを含めた異邦人世界に対するパウロの務めは、神の度量にしたがっていました。このゆえに、彼の誇りは、この限度の中にありました。エペソ3:1 こういうわけで、私パウロは、あなたがた異邦人のために、キリスト・イエスの囚人となっています。2 あなたがたのために、私に与えられた神の恵みの執事職について、あなたがたは確かに聞いていることでしょう。ガラテヤ2:8（なぜなら、割礼の者への使徒職のためにペテロの内に働かれた方は、異邦人のために私の内にも働かれたからです）。B2コリント10:13の「尺度」という言葉は、文字どおりには、「測りざお」を意味し、大工によって用いられる物差しのようなものです:113節の「度量」という言葉は、神によって測られることを示します。神は私たちの働きと経験に対して、一定の度量だけを割り当てました。2管理し測る方、すなわち測りなわの神、尺度の神がおられます。ですから、私たちは神の尺度、神の測りの限度の中にとどまらなければなりません。C2コリント10:13から15から、私たちが見ることができるのは、私たちは主の働きが拡大することを期待しますが、どのようにして神の制限の下にいるかを学ばなければならないということです:10:15 私たちは自分の度量を越えて、他の人の労苦を誇っているのではなく、あなたがたの信仰が増し加わるにつれて、私たちの尺度にしたがって、あなたがたの中で豊かに拡大される望みを持っています。1私たちは、測りなわのない拡大を期待してはなりません。そのような拡大は、決してその霊にしたがった歩みの限度の中にはないでしょう。2その霊にしたがって働きを拡大するなら、常に限度があると、私たちは経験から証しすることができます:a内側で、私たちは、ある境界線を超えて働きを拡大することに平安がありません。b外側で、環境は、私たちがある特定の境界線を越えて行くことを許しません。Dパウロは、主の制限を受け入れることを学ばなければなりませんでした:1パウロはローマに行くことを願ったのですが、束縛の中でそこへ行くとは思いもしませんでした。2パウロは、ローマの信者たちに、彼らに送られてスペインに行くことを期待したと告げています。しかし、彼は決してスペインに行くことはありませんでした。3パウロは進んで神の測ることに服しました。彼の束縛と投獄が、神の主権ある制限でした。E神の測ることの原則に基づいて、パウロは彼が行ない、語ったことは何であれ、彼の度量を越えていないことをコリント人に告げました。パウロは常に彼の度量の中で行動し、振る舞いました。F使徒たちは常に神の尺度にしたがって行動しました。神が彼らに測り与えたものは何であれ彼らの管轄となりました。G召会の奉仕において、私たちが認識する必要があるのは、神がある一定の量だけを私たちに測り与えているので、私たちは自分の度量を超えて身を伸ばすべきではないということです。私たちは自分の制限を知る必要があります。Hパウロのように、私たちは神が私たちに測り与えた程度にしたがって行動し、活動するべきです。II.私たちは、復活の中の新創造として、キリストの昇天の中で彼と共に生き、神の王国のために霊的戦いに従事します:A昇天の中で私たちは、キリストと共に「獅子の洞穴、豹の山から」見ます:1獅子の洞穴と豹の山は天上を表徴し、そこにサタンと彼の従属者たちがいます。2勝利はすでに得られました。しかし、サタンと彼の邪悪な勢力は、依然として天上にあります。私たちは昇天の中で生活し、邪悪な勢力をはるかに超えていなければなりません。3ここにおいて私たちは、サタンと彼の暗やみの勢力と戦います。それは、主の中で、また彼の力強い大能の中で力づけられることによってであり、神のすべての武具を身に着けることによってです。これが、キリストの昇天の中で生活することの実際です。B霊的戦いが必要であるのは、サタンの意志が神の意志に対抗しているからです。私たちの戦いは、サタンの意志を征服して、神の敵を打ち破ることです:1私たちは、主のみこころが何であるかを理解する必要があります。2神のみこころとは、神が欲すること、また神が完成しようとすることです:a神には永遠のみこころがあり、それは彼の永遠の定められた御旨の源です。b神は永遠であって、始まりも終わりもないので、彼のみこころも永遠です。このみこころは宇宙の起源の中心にあります。c神がご自身のみこころのために万物を創造したのは、ご自身の定められた御旨を完成し、成就するためです。d神のみこころは、キリストに集中しており、キリストが万物のうちで第一位となることです。キリストは神の永遠のみこころの中ですべてです。e神はキリストと召会を持つことを欲しています。神のみこころは、キリストのからだとしての召会を得ることです。C私たちは霊的戦いに従事するために、昇天の地位を維持しなければなりません:1エペソ6:10から12で述べられている霊的戦いは、2:6の昇天の地位に基づいています。2:6 キリスト・イエスの中で、私たちを彼と共に復活させ、彼と共に天上で座らせてくださいました。2昇天の地位は、

戦いの中で私たちに勝利を得させます。なぜなら、昇天の地位においてのみ、私たちは天的な権威を持つことができ、また権威をもって祈り、神の敵を対処することができるからです。D霊的戦いは、キリストの勝利に基づいています。主イエスは死を通して悪魔を滅ぼし、彼を無へと帰しました。E私たちは、霊的戦いに従事して、サタンの大混乱を征服し、神聖なエコノミーの中で勝利を得ます:エペソ1:10 時代の満了時のエコノミーへ至るためです。すなわち、キリストの中で、天にあるもの地にあるもの、すべてのものを、彼の中でかしらにつり上げようとされたのです。1宇宙の歴史は、神のエコノミーとサタンの大混乱との歴史です:aサタンは大混乱の源であり、神ご自身は神聖なエコノミーです。b聖書においても、私たちの経験においても、サタンの大混乱は常に神聖なエコノミーと並行しています。2神が求めているのは、私たちを大混乱から救い出すことではなく、私たちが神と一になって、旧創造の中にある破壊的なサタンの大混乱を征服して、新創造のために建設的で神聖なエコノミーを遂行することです。3私たちは大混乱に遭遇しているとき、神聖なエコノミーのために立ち、神聖なエコノミーを生かし出す必要があります。F私たちは、神聖な建造のために、キリストのからだとしての召会のために、霊的戦いに従事する必要があります。召会を建造することは、戦いの奉仕です。1テモテ6:12 その信仰の良い戦いを戦いなさい。永遠の命を保持しなさい。G霊的戦いの目的は、神の王国をもたらすことです:1霊的戦いは、神の王国とサタンの王国との間の戦いです。2神の王国は、神聖な意志を活用して、神の力によってサタンの力を覆すことです。3召会の働きは、神の王国をもたらすことです。召会は祈りを通して、神の王国の力を地上に解き放たなければなりません。

III.キリストは彼の婚宴の日に、神の敵と長年戦ってきた者と結婚します。すなわち、キリストはすでに邪悪な者に打ち勝った勝利者と結婚します:Aキリストは来て、反キリストとその軍隊と戦うとき、人の子として来ます。彼は人の子として、彼に符合し、彼を完全にする配偶者を必要とします。この配偶者は彼の花嫁です。 Bキリストの花嫁を構成する勝利者は、神のすべての敵に対して戦い、彼らを打ち破ります:1勝利者は、命と死の戦いに従事して、死を命の中で王として支配します。2勝利者は、破壊的な大混乱を征服し、建設的で神聖なエコノミーの中で勝利を得ます。彼らは、現在の大混乱から救い出されるのではなく、すべてに十分な恵みとしての手順を経て究極的に完成された三一の神によって、大混乱を征服します。証私は霊的戦いの務めを遂行するためには、神の尺度の度量に留まる必要がある事を証します。神の尺度の度量の管理の下で、私の結婚、子供、地方召会での生活と奉仕、会社などのすべての生活環境が存在します。私は先ず、妻との関係で、彼女が私のために与えられていることを感謝し、共同経営者という意味でのパートナー関係を建て上げてきました。神戸に移住して2年目頃、私の上の姉が私の家を訪問し宿泊した時、妻が私のシャツをアンロンがけしていないのを発見しました。姉はこのままでは弟が会社で馬鹿にされると考え、妻にアイロンをかけるように勧告しました。私は妻からそのことを聞いて、直ぐに姉に電話して言いました、「私がアイロンをかけていないシャツを着ることで、会社で出世できなくても問題ありません（会社より妻の方がより重要であるという意味）。余計な提案をしないでください」と明言しました。私がこのように言ったのは、妻が私のパートナーであることを認識し、彼女を尊んでいたからです。妻が当時のママ友たちとの会話の中で、夫の側の家族が彼女たちに文句を言って来た時に、夫が妻の側に立たないことへの不満を漏らしていたので、妻は私のこの行動を話しました。彼女たちはそれを聞いて、大いに驚き、私を称賛しました。

　また、私の妻は長女で、家の中で二人の弟たちに対して、命令口調で話す習慣があるので、私に対しても無意識に命令口調でした。私はその言動に当惑し、悩まされました。しかし、このことは私の益となりました。私は大企業の中で地位が高かったのですが、家に帰ると、妻は私の会社での地位と無関係に、私を押さえつけました。結果として、私は高ぶることから救われました。聖書に基づいて妻を、ただ家事を行う人としてではなく、パートナーであるとの認識がいつも私を助けました。互いに衝突がある時、この認識に基づき主と交わり、主に触れ、彼を経験し、享受して、自分自身を調整しました。この調整に時間がかかることもありましたが、私はこの聖書の啓示に基づく認識の故に、憐れみを受けました。世の中では、離婚の最大の理由は性格の不一致ですが、キリストの肢体である私は結婚を尊びます。彼女の助けがなければ、二人が一つ霊一つ思いでなければ、私の奉仕の効果は、10分の1に減少していたと思います。また、姉妹も私を助けることで彼女の能力を最大化していると思います。主を賛美します。主の御手の管理を認識し、服して初めて、私は建造のために霊的戦いに従事することができました。神の尺度に従った奉仕をするための関係性は、①主イエスと務めの言葉、②夫婦、③特定の地方で共に奉仕している聖徒たち、④すべての聖徒たちの順で、その後、⑤霊的戦いと建造があるのです。